

募集

博物館友の会
会員募集



博物館友の会は、6つの部会に分かれて活動を行っています。毎年12月には、各部会の活動の様子を紹介する作品展を開催しています。

部会・募集人員（先着順）

- ◇はたおり部会 4名
- ◇古文書部会 希望者全員
- ◇陶芸部会 2名
- ◇拓本部会 希望者全員
- ◇歴史部会 希望者全員
- ◇染色部会 なし

料 500円／年

申 3月8日(火)から直接博

物館窓口へ

☎ 23-7173

愛知労福協知多支部
写生大会参加者募集



時 4月3日(日)

9時30分～14時

※雨天の場合4月10日(日)

場 雁宿公園

対 愛知労福協知多支部加入

組合員とその家族、知多半島在住・在勤の方とその家族

愛知県労働者福祉協議会

知多支部事務局

☎ 21-4032

講習・講座

半商コミュニケーションスクール
スマホ・パソコンの使い方
を高校生がマン
ツーマンで教え
ます！



時 3月19日(土)

10時～12時

(受付開始 9時45分)

場 市民交流センター

(クラシティ3階)

対 スマートフォン・パソコ

ン初心者の方

20名(先着順)

料 無料

申 3月7日(月)～18日(金)に

氏名・住所・電話番号を電

話で市民交流センターへ

☎ 32-3430

ごん吉くんレポート

～南吉よもやま話～

第59回 刈谷の森三郎

新美南吉は「ごん狐」はじめ4編の童話が児童雑誌『赤い鳥』に入選しましたが、同じ愛知県出身で南吉よりもはるかに多くの童話を『赤い鳥』に発表した作家がいます。碧海郡刈谷町(現刈谷市)出身の森三郎です。

明治44年生まれで南吉より3学年上の三郎は、後に書誌学者となる兄の影響で小学生の頃から『赤い鳥』に傾倒します。昭和6年、一時休刊していた『赤い鳥』が復刊すると、毎号のように三郎の童話が採用され、翌年からは主宰する鈴木三重吉の下で記者として働くようになります。幅広いジャンルの作品が書けた三郎は、編集だけでなく、サクラとして投稿作品を書くこともあり、現在わかっているだけで同誌に発表した作品は119編にのぼり、用いたペンネームは本名を含め46に及びます。



森三郎(刈谷市提供)

赤い鳥社に投稿童話を持参した南吉を三郎が応対するなどの機会はありましたが、三重吉に師事する三郎に対し、南吉は北原白秋の門人でしたので、二人の間に直接的な交流はありませんでした。しかし、年齢も郷里も近い三郎が『赤い鳥』で活躍していることは、当然南吉も意識していたでしょうし、競争心を燃やしていたかもしれません。

故郷の刈谷市では三郎の作品集を出版し、森三郎童話賞を創設するなど顕彰活動を進めています。南吉記念館や半田市立図書館にも本がありますので、一度手に取ってみたいはいかがでしょうか。

新美南吉記念館長 遠山光嗣

3月21日(祝)には森三郎と南吉をテーマにした貝殻忌講演会を開催します。(詳しくはP22をご覧ください)

新美南吉記念館よりお知らせ

市報2月号でお知らせした文学講座「新美南吉はなぜ故郷を舞台に児童文学を書いたのか？」は4月9日(土)に延期しました。

詳しくは新美南吉記念館ホームページをご確認ください。

